

平成 19 年度 産業技術実用化開発助成事業 採択課題一覧

	事業者名	開始期間	事業名	事業概要
1	株式会社アイ・エイチ・アイマリンユナイテッド	H19.9～	船首尾を含む船体外板の自動曲げ加工技術の開発	船殻の外板曲面は線状加熱という熟練技能で曲げ加工されるが、中でも船首尾の曲げ加工は高い技能密度が要求され造船界のボトルネックになっている。平成2年以來この自動化開発に取り組み、加工度合いの低い一般部については世界で唯一自動化を実現しているが、残る船首尾の曲げ処理自動化を実現する。
2	株式会社アイメス	H19.9～H20.3	次世代ハードディスク用ヘッドメディアテスターの実用化開発	年率 40%で記録密度が向上していくハードディスク業界では新しい磁気記録方式が提唱されている。本事業ではそれらの新方式に対応する次世代型磁気ヘッド・メディアテスターの開発を行なう。革新的サーボ技術と信号処理技術、高周波回路技術等により、ディスクの偏芯に対する高精度追従性と高いビット分解能を持ったテスターを開発する。
3	荻野工業株式会社	H19.9～	超精密研削技術による世界初モータ内蔵完全一体型減速機の開発	世界初のモータ内蔵完全一体型減速機を開発を行い、事業化する。この減速機は超コンパクト・超静粛であり、今後も成長が有望な産業用ロボット、自動車等に広く活用され得る高いポテンシャルを有する。
4	東レエンジニアリング株式会社	H19.9～	スラット構造シリコン薄膜太陽電池モジュール製造装置の開発	世界的に需要の伸びが予想されるシリコン薄膜太陽電池において、強みである実装装置事業で培った接合技術と、フィルム搬送技術を応用して、短冊状のステンレス基板シリコン薄膜太陽電池を自動接続し、ガラス基板太陽電池と同等以上の変換効率で、より低コストでかつ軽量で柔軟性のあるスラット構造シリコン薄膜太陽電池モジュールを製造する技術を開発する。
5	戸田工業株式会社	H19.9～	革新的コスト低減燃料電池用新規 Ni 系改質触媒の製造技術開発	担持するニッケル金属粒子サイズをシングルナノ化することにより耐硫黄被毒性及び耐コーキング性を合わせ持ち、革新的なコスト低減が可能な燃料電池用ニッケル系改質触媒を実用化・量産化するための製造技術を開発する。
6	長野計器株式会社	H19.9～	金属ガラス合金製高精度圧力センサの実用化開発	金属ガラス合金を用いた、高感度・高精度な圧力センサの実用化および製品化を目指す。金属ガラスプロジェクトにて、要素技術の開発ならびに金属ガラス合金物性の有効性確認を行ったのに引き続き、圧力センサ素子用金属ガラス部材の量産レベルでの部材成形技術および部材品質の確立を行う。さらに部材の量産技術の開発と並行して、金属ガラス合金の特長を活かした圧力センサの製品開発を行う。

7	並木精密宝石株式会社	H19.9～	金属ガラスを用いたマイクロギヤードモータの実用化開発	NEDO 金属ガラス成形加工プロジェクトにおいて開発した金属ガラスを用いたマイクロギヤードモータの実用化に向け、金属ガラス製ギヤ部品一式の内製化と市場要求に見合った製造コストを確立するために、金属ガラス製マイクロギヤの革新的加工プロセスの開発と、量産技術開発を行う。また、このマイクロギヤを組み込んだ直径 1.5mm のギヤードモータを試作・評価するとともに、医療機器メーカーを中心とした新規市場創出を狙う。
8	富士機械工業株式会社	H19.9～	精密薄膜コーティングシステムの開発	フラットパネルディスプレイの薄型化、大型化に対応して、薄膜化・幅広化が課題となっている光学機能性フィルムの塗工工程において、生産性向上、高品質化の要求に応えるべく、高精度薄膜塗工の技術開発を行い新たな塗工システムの商品化を目指す。
9	株式会社リアライズ	H19.9～	3次元乾式転写工法に適した量産型転写装置の開発	3次元乾式転写工法は既存工法に対して環境負荷が少ないばかりでなく、コスト面・表現力で画期的な工法であるが、3次元乾式転写の事業化の成否は転写装置の完成度に依存している。大学・公的機関との連携を図りながら、量産型転写装置を開発・完成させる。